

- 旧居留地連絡協議会「石川賞」受賞（P.1）
- 「神戸らしい眺望景観」の募集（P.2）
- こうべの空間像 空間像研究会の活動（P.3,4）
- まちづくりセンターからのお知らせ（P.4）

あーばんとーくの感想をお寄せ下さい！

発行：こうべまちづくりセンター

<http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/>

旧居留地連絡協議会

「日本都市計画学会・石川賞」を受賞

「旧居留地連絡協議会」が「平成18年度 日本都市計画学会石川賞」を受賞されました。とりわけ震災後の街並み形成や安全・安心のまちづくり活動が、アーバンデザインの新しい方向性を打ち出すことに成功したと認められた結果であり、まちづくり協議会単独での受賞も“初めて”という栄誉であります。



表彰を受ける野澤同協議会会長（左）
平成19年5月16日 東京大学 弥生講堂 一条ホール

旧居留地連絡協議会は、神戸旧居留地で事業を営む法人を構成員とする組織で、第二次世界大戦後すぐから、会員相互の親睦を第一義に活動を続けてこられました。とりわけ1995年の阪神・淡路大震災を経験した後は、安全で風格ある都心の形成を目指したまちづくり活動にも積極的に取り組まれています。

震災直後に「復興計画」や「都心（ま）づくりガイドライン」を自主的に策定され、会員をはじめとする関係者間で“まちの将来像”を共有され、協働で取り組まれた結果、震災前にも増した美しい街並み形成を実現されていることは、皆様ご存知の通りです。

また、安全・安心なまちづくりについても「旧居留地・地域防災計画」を策定され、例えば、地震などの非常時においては、当地区の就業者以外の帰宅困難者にも一時的な避難場所を提供する申し合わせをされているなど、都心で働く企業市民としての役割りを積極的に果そうとされています。

このような多方面にわたる成果は、野澤会長が同賞受賞式のスピーチのなかで『旧居留地でこのような活動、あるいは運動を可能としましたのは、会員企業個々の“わが街に対する愛着”をベースに、その思いを緩やかにまとめることができた結果でしょうし、それには常日頃からの“おつきあい”があったからこそだと考えております。』と述べられているとおり、日々の活動の積み重ねが、石川賞受賞という大きな評価を得たといえます。

旧居留地連絡協議会の皆様、受賞、おめでとうございます。

（神戸市都市計画総局計画部地域支援室）

◆「日本都市計画学会賞」とは◆

財団法人 日本都市計画学会が年1回行う表彰で、石川賞、論文賞、計画設計賞などがあり、1959（昭和34）年からはじめられました。

このうち、石川賞は最高賞で、都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をした個人または団体に贈られます。

神戸市内で石川賞を受賞した対象地区としては、ポートアイランド（1980年度、代表 宮崎辰雄 神戸市長）、ハーバーランド（1993年度、代表 笹山幸俊 神戸市長）、長田区真野地区（2002年度、宮西悠司 まちづくりプランナー）に次いで4件目となります。

「神戸らしい眺望景観」の募集

ま も り ・ そ だ て ・ つ く る 神 戸 の 景 観

神戸市は、六甲山系の山並みや、海や港を背景として展開する市街地の眺望や西北神地域の豊かな自然と一体となった田園集落の眺望など、変化に富んだ素晴らしい眺望景観*をもっています。

神戸市では、この良好な眺望景観を保全・育成していくための施策を検討していくことが必要だと考えています。あなたが、まもり・そだて・つukっていききたいと思う神戸らしい眺望景観を教えてください。

みなさまのご意見をもとに、まもり・そだて・つくる神戸の主要な眺望景観を選定し、施策を検討していきます。

※眺望景観とは、「眺めの良い場所」から「眺められる対象」を見たときの景観のことをいいます。

◆募集要件

原則として、一般の方が立ち入り可能な場所であること。ただし、施設の管理上の都合で閉鎖日時があってもかまいません。

◆募集内容

次の(1)から(3)を記入のうえ、応募用紙を下記の応募先へ郵送か電子メールでお送りください。

- (1) 眺めの良い場所
- (2) 眺められる対象
- (3) 選んだ理由

※写真や位置図があれば、添付してください。



例)【眺めの良い場所】ハーバーランド(モザイク)
【眺められる対象】ポートタワー、海洋博物館

◆募集期間

平成 19 年 8 月 1 日 (水) から
平成 19 年 8 月 31 日 (金) まで【当日消印有効】

◆応募先

神戸市都市計画総局計画部地域支援室景観係
〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 (神戸市役所 2 号館 4 階)
TEL : 078 (322) 5484 FAX : 078 (322) 6096
電子メール : keikan@office.city.kobe.jp
ホームページ : <http://www.city.kobe.jp/cityoffice/33/33/keikan/choubou.html>

◆その他

- (1) 応募は、1 人何点でも構いません。
- (2) 市外や海外にお住まいの方も応募できます。
- (3) 抽選で 30 名の方に、記念品を贈呈します。(発表は、発送をもって代えさせていただきます。)
- (4) 添付していただいた写真はお返しできません。これらは、神戸市が承諾なく別途 PR 等で使用させていただく可能性があります。
- (5) 応募いただいた景観が、神戸の主要な眺望景観として選定された場合は、神戸市のホームページに掲載します。また、さんちか通路でも展示します。(展示は平成 20 年 3 月頃予定)

こうべの空間像

空間像研究会の活動 その1

三輪康一（空間像研究会）

■今なぜ空間像か

神戸の都市空間について語りたい、そんな思いから、建築家、都市プランナー、行政、研究者、学生などが集まって空間像研究会は、2003年11月に発足しました。

現在のまちづくりは、ハードな空間整備のみならず、福祉、地域経済、環境などソフトな領域を含む多様な方向に展開しています。それは、地域で課題を発見し、自ら解決していくまちづくりの考え方が地域に根付き、進化してきた結果です。確かに阪神大震災後のまちづくりは、それ以前のハード（箱もの、うつわづくり）に偏った姿勢に対する反省から、間口と奥行きをひろげていったともいえるでしょう。ただ、ソフトな領域のまちづくりは概してその目標を具体的な空間として描くことが難しいし、もともと、それを空間に仕上げることにはあまり関心がないのではと思われる。では、私たちの生活の場、道路や公園や建物など具体的な生活環境をかたちづくるハードはほっておいてよいのか、もう役に立たないのか、ということももちろんそうではないでしょう。最近では、建物やその設備の安全性について話題になっていますし、ふつうのまちなかでも景観やまちなみについて関心が高まっています。まちづくりが多様化していく今だからこそ、空間にこだわり、うつわだけでなく中身をもとにした新しい発想で空間を考えていきたい—空間像とは、空間をつくっていかうとする意志の表われです。たとえば、福祉や経済や教育、環境問題などの価値に応じた従来とは異なる観点からの空間像を描くことは可能か/あるいは、多様な価値や目標のそれぞれを貫き、共有できる空間像を描くことができるか/これまで表現された空間像自体の魅力のもとはどこにあり、どうすれば特定の空間を魅力的に描くことができるのか。まちづくりが新しい方向を模索するなかで、その具体的な姿を形づくる空間像のあり方を考えていきたいと思っています。

■これまでの活動と提起された論点

現在月に1度くらいのペースで研究会を開催していますが、これまでの研究会の活動、議論の内容を振り返ると、大きくは4つくらいのテーマがあるようです。

ひとつは、そもそも空間像とは何か、という議論です。たとえば、空間像が多様な魅力や役割をもつこと/空間像が点や線、面さらに立体によってつくられるということ/対象となる領域の広がりや空間自体のもつ特徴によって空間像の性格が異なること/空間像を把握するツールとして地図が重要であり、その地図の縮尺によって表現される内容が異なることなど、さまざまな視点から議論を積み上げてきました。

二つは、まちづくりの地域空間像の形成プロセスを現実の事例から学ぶことからでてくる論点です。旧居留地地区や南京町、西出・東出、東川崎、有馬温泉、新長田駅前再開発事業区域など、特色あるまちづくり活動が行われている地域を対象に、そこでの空間像がどのように構想され、共有され、実現されてきたか、その空間像形成に関わった研究会メンバーから直接はなしを聞きながら議論してきました。前述のように空間像は、地域の人々のまちづくりの意志として望ましい空間を描くものです。それは無から描かれるものでなく、現実の空間を参照しながら、その特徴を活かし、課題を改善するように描かれる。その相互の関係がスパイラル状にまちづくりのプロセスに対応して人々に共有される空間像がつけられていくということがわかってきました。

三つは、神戸市や伊丹市などでの景観法の適用、眺望景観や、ウォーターフロントなどの新たな景観施策の展開、「デザイン都市・神戸」の都市戦略など、その時々新しい都市デザイン施策についてレクチュアを受け議論していくことです。とくに眺望景観については、シアトルのビューコリダー政策など先進事例の勉強も行っていきます。なお関連して、景観法制定をきっかけにして2004年の4月から7月にかけて3回のオープンセミナーを開催し、景観法になにが可能かという視点から討論し、多くの人々に参加していただきました。

四つは、現代建築と都市空間像、兵庫の町並み2005調査、コミュニティによるニュータウン管理運営に関する研究、まちづくりにおける地域空間像の特性と形成プロセスに関する研究など、メンバーの空

間像に関わるさまざまな研究・調査活動の報告、問題提起があります。

以上のような議論からいくつかの論点が浮かび上がってきました。たとえば、「神戸らしさ」とは？また「神戸らしさ」を空間像にどのように結びつけていくか。あるいは、まちづくりのプロセスにおいて、だれが地域の空間をつくっていくのか。つまり「協

働」の理念とモノづくりの具体化との間をどう埋めていくか、そこでの専門家の役割は何か、など話題は尽きることがありません。

以後、この紙面を借りてその内容の一端をご紹介していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

まちづくりセンターからのお知らせ

【スライド&トークショー】

神戸の文脈 都市の文脈

震災から11年目の神戸市東部を、神戸を中心にまちに関わる仕事に携わる人たちが、歩いて感じたまちの様子を報告会です。

1. 日 時 9月9日(日) 午後1時30分～4時(受付は、1時から)
2. 場 所 こうべまちづくり会館2階(下記の地図をご参照ください)
3. 内 容 スライド上映と沖縄、神戸、京都からのゲストによるコメント
4. その他 参加希望の方は、FAXでお申込みください。(FAX:078-361-4546)

主 催 『震災10年後、灘・東灘の景』 討論実行委員会

協 力 こうべまちづくりセンター

【パネル展】

同じテーマで、パネル展示も行っています。

1. 期 間 9月2日(日)～9月30日(日) 水曜日休館
2. 時 間 午前10時～午後6時
3. 場 所 こうべまちづくり会館1階(下記の地図をご参照ください)

まちづくり会館展示のお知らせ

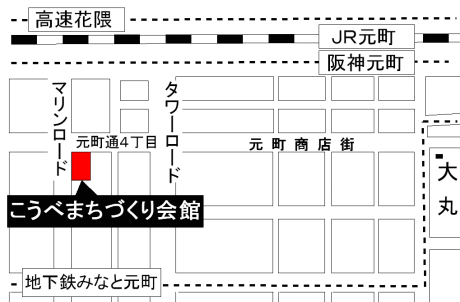
1階オープンギャラリーの予定

期 間	内 容 ・ テーマ	主 催 者
8月 2日(木)～31日(金)	建築ルール・手続き等の啓発パネル展示	都市計画総局安全対策課
9月 2日(日)～30日(日)	神戸の文脈 都市の文脈	『震災10年後、灘・東灘の景』 討論実行委員会

地階ギャラリーの予定

期 間	内 容 ・ テーマ	主 催 者
8月23日(木)～28日(火)	回転ドアの仲間たち・油彩展	回転ドアの仲間たち
8月30日(木)～9月4日(火)	油絵グループ展	朝日加チャ 神戸増井教室
9月 7日(金)～11日(火)	劉 素真と神戸墨酔会 水墨画展	神戸墨酔会
9月13日(木)～16日(日)	書友クラブ・神戸支部展《書道》	書友クラブ
9月20日(木)～25日(火)	麓和会 洋画作品展《油彩》	麓和会

展示時間：午前10時～午後6時(水曜日休館) ※初日、最展示時間に変更になる場合があります。



最寄駅

地下鉄海岸線 みなと元町駅西口から1分
 高速 花隈駅東口から3分 西元町東口から5分
 JR・阪神 元町駅西口から8分

こうべまちづくり会館

〒650-0022

神戸市中央区元町通4丁目2番14号

開館時間：午前10時～午後6時(水曜日休館)

電話:078-361-4523 FAX:078-361-4546

ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)

自治会の運営等の相談、会報等の印刷サービス

電話・FAX 078-361-4565

受付:午前10時～午後6時(水曜日休館)

ただし印刷は、5時まで